

天文学とプラネタリウム 第17回

宇宙打100,000アクセス達成!

天プラ企画書 on 星ナビ

- 宇宙とお茶の楽しい関係 -



高梨直継 (東大D1/天文学教育研究センター所属) 平松正顕 (東大D1/国立天文台ALMA推進室所属)

お茶を片手に、喫茶店で科学について語り合う。最近、こんなイベントが日本でもはやりつつあるのを、あなたは知っていましたか? 名前は“Cafe Scientifique”、日本では“サイエンス・カフェ”なんて呼ばれています。サイエンス・カフェはイギリスで考案されたイベントで、今では世界各国で行われています。今号の天プラコラムでは、サイエンス・カフェがどんなイベントなのか、簡単に紹介したいと思います。

1. 気軽に科学を楽しむ

壇上からえらい先生がありがたいお話をされて、私たちは客席でふんふんと聞いて、なんとなくわかった気になる講演会。でも、ちょっと物足りないなあと感じたことはありませんか? もっとこの事について知りたい! なんて思っても、話を遮って質問するわけにもいきませんし、ましてや大勢の前ではなかなか手をあげにくいものです。もうちょっと気軽にあのセンセと話が出来ないかな? なんて希望に応えるのが、サイエンス・カフェなのです。

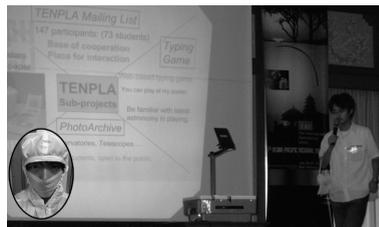
サイエンス・カフェは、講演会とは異なり、喫茶店やちょっとしたスペースを利用して開催されます。肩肘張らず、お茶を片手にラフな感じで知的な会話を楽しむ、そんなイメージです。もっとも、日本にはこれまでこういう文化はなかったもので、いきなり会話に参加するのはなかなか難しいかもしれませんが…。

サイエンス・カフェの大きな特徴は、お客さんである私たちも議論に参加して科学を語り合う点です。講演会などはどちらかと言えば知識を増やすイベントであるのに対し、サイエンス・カフェは自分で考えることを楽しむイベントであると言えるでしょう。そのため、10~20人程度の少人数で行われます。議論をするという

となにか難しい感じがしますが、心配は要りません。お互いに不思議だなと思うことを口にし、考えれば良いのです。不思議に思うことをじっくり考え、すっきりする。そんな機会を提供するのがサイエンス・カフェだと言えるかも知れません。

2. そして天プラ版「サイエンス・カフェ」

前置きが長くなりましたが、天プラも北海道大学科学技術コミュニケーション養成ユニットとサイエンスカフェを共催することが決まりました。場所は北海道の札幌市、時期は10月のはじめです。普段、私たちが目にする夜空から最新の天文学までがどのようにつながっているのかについて皆さんで考えてみたいと思います。詳しい情報は www.tenpla.net でチェックして下さいね。今回は札幌ですが、今後も各地で開催していければと考えています。あなたもお茶を片手に宇宙を語ってみませんか?



大学院生はなにも望遠鏡を使って観測してばかりというわけではありません。時にはこんな格好で、クリーンルームの中で作業したりもします。楽しそうでしょう? (梓内・高梨) / バリ島で開催された天文学の国際会議で天プラについて発表する平松。ATPへの関心は国境を超えることを確信しました。(平松)



本場イギリスでは、喫茶店に限らず、パブでもこのようなイベントが行われているそうです。日本でも、アストロノミーパブがオープンするという噂が…